

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム たろう

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200129		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム たろう		
所在地	〒027-0301 岩手県宮古市田老字館が森52		
自己評価作成日	平成 22 年 7 月 15 日	評価結果市町村受理日	平成 22年 10 月 29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390200129&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成 22年 8 月 2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○地域住民の皆様と関わり合いをしながら、入居者様の笑顔作りをする。
 家族参加行事の企画をして、ご家族がホームへ訪れる機会を多く作り、家族のふれあいを大事にしている。法人内のグループホームが5つあり、各ホーム特色があるが、ホーム合同の運動会や、催し物の見学等、大勢での活動する機会もあり、良い刺激になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは地域住民との共生・その人らしい暮らしの意義や役割を意識しながら、地域行事や文化活動へ利用者の積極的な参加、児童生徒の体験学習受け入れ等さまざまな機会を通して、地域に根ざした実践に取り組んでいる。玄関先に設けている椅子やソファは、地域住民が気楽に立ち寄れるふれあいの場ともなっている。また職員は、見守りを重視しながら、常に優しい笑顔やしぐさで対応し、利用者の力が発揮できる場面づくり、利用者と利用者をつなぐ関係づくりを目指しながら、利用者の前向きな力を引き出す実践に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム たろう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念方針を入居者様から書いて頂いて、誰の目にも触れる玄関に掲げている。カンファレンス時には唱和して時折入居者と唱和して共有している。	職員は、理念の「地域住民との共生」「その人らしい暮らし」のテーマを強く意識しながら、地域に溶け込む運営、利用者の前向きの活力を引き出すプランづくりとその実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人クラブ、自治会の入会、中学校3校、高校生の体験学習を受け入れて交流を図っている。地域行事の参加	自治会、老人クラブに加入し、文化祭や学校行事等に参加するなど、地域の一員としての接点を広げている。また中高生の体験学習を受け入れ、地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の商店への買物、散歩時には、立ち話などをしながらごく自然な流れの中で理解して頂くようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催。入居者の状況や活動状況等を報告し、意見やアドバイスを頂いているが、とても和やかな家庭的な雰囲気でき、参加された方の情報交換の場となっている。	前回の会議で取り上げられた検討課題や懸案事項に応じて、委員のほか、校長先生、消防分署員、災害協力員等の出席を仰ぎ、それぞれの立場からの意見や情報を運営に活かせるような会議の開催となっている。	利用者の居場所作りの懸案事項については、法人と相談しながら、何とか実現されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者には運営推進会議には必ず出席頂き、ホームの状況を常に把握して頂いている。ホーム便り等入居者と一緒に届けている。	担当者として、行事相談や対応困難の相談、運営推進会議・介護実践事例発表の報告、広報などは利用者と一緒に届けながら、行事開催への相談や協力、アドバイスを頂くなど、支援が得られるように働きかけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が県身体拘束廃止推進員でもある事から、徹底して拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束による弊害の理解や具体的な行為等についての研修に努めながら、拘束しないケアの実践に取り組んでいる。一方、ケアの三原則についても確認し合いながら、その人らしい生活の支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の全体勉強会において、学びグループホームでの拘束について各ホームで委員を選出し、拘束廃止委員会において検討し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方はいないが、年間勉強会にて勉強する機会をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にショート利用、見学等して頂き納得してから入居して頂くようにしている。契約の際はご家族に必ず時間を取って頂き説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や、ホーム行事への参加、運営推進会議の場において、ご意見を頂き運営に反映させている。	法人のグループホーム合同運動会、誕生会などが利用者や家族の意見や意向等を話すことのできる機会となっている。出席できない遠方の家族には、ホームで作成している「お知らせ」に意見や要望を記入できる欄を設け、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議、個々面談等職員が意見を言いやすい環境作りに努めている。	ケース記録や申し送りには、利用者の状況記述、介助についての率直な提案や課題、意見や感想などが記されており、それらの意見や要望などを運営に反映させながら、職員の意欲の向上や質の確保につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のチームワークが不可欠であり、常に職員が働きやすい様に勤務体制には配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会、力量に合わせた研修参加、法人内の教育委員会のバックアップがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム合同行事参加、GH協会沿岸北ブロック交流会、勉強会等の参加、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問調査時、本人やご家族の要望や困っている事を傾聴し、できるだけ自然な形での関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ひとつひとつ、不安を取り除くように傾聴し、答えを出し、いつでも任せて下さいと言う気持ちで対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議、にて検討し、馴染みの暮らしの継続ができるよう、本人、家族の意向を確認し、計画作成する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中では、人生の先輩である事を念頭におき調理の方法を教えて頂いたり、昔話を聞いたり常に支え合う関係である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支えていく為の1つのチームと考え協力を頂ながら、ホームでの本人の様子をお知らせしたり、来設して頂けるよう行事の企画等行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方とは、自然に馴染みの関係ができている。毎月同級会に参加したり、手紙の交換も行っている。居室にお位牌を置き毎日、手を合わせている。	公園の除草作業、芸能会で踊りを披露、同級会への参加、行きつけの理美容院、地元行事、運動会など、馴染みの人と出会う参加の機会を活かしながら、馴染み関係を広げる継続的な支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も間に入って特にトラブルもなく、お互いに持ちつ持たれつ、良い関係で生活しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居前にショート利用、見学等して頂き納得してから入居して頂くようにしている。契約の際はご家族に必ず時間を取って頂き説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と変わらず、状況把握できるように努めている。相談があれば、いつでも対応している。	「支持的な対応・近づいて目を見て話す・相手のペースにあわせる・情報は簡潔に伝える」など、一人ひとりの安心や誇りや自信につなげるような働きかけをしながら、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族にアセスメントシートを記入していただき、情報の共有をして、馴染みの生活の継続が出来る様、本人の混乱を最小限にするよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり、ひとりの健康チェック、状態、生活状況を把握し又、記録、申し送りノートや申し送りで情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで、介護計画の評価を行い、見直している。家族参加が実施されない為、電話や、来所持に意見を取り入れ、本人の気持ちを反映し、介護計画を作成している。	日々の利用者の状態と意向の把握をもとに担当職員と計画作成者(管理者)が協議しており、ケアの目標等を詳細に検討したうえで介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の他に申し送りノートを活用したり、アセスメントシートにセンター方式を活用し、カンファレンス時には職員間で情報共有しながら見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族面会時の急な食事の申し出や、急な外泊希望にも柔軟に対応し、家族と共に過す時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物や、散歩時には、声を掛けて頂き、入居者の名前も覚えて頂いている。老人クラブ、地域の芸能大会では踊りの得意な方に参加を促し、活躍の場を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は自宅からのそのままのDrに定期通院の支援をしている。ホーム協力医とは良い関係作りをしている。	ホームの協力医は利用者の昔からの健康状態を一人ひとりを把握しており、定期的な受診により信頼関係が築かれている。また他の病院を受診する場合にも、協力医からの紹介により適切な医療が確保されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連携で24時間入居者の状態変化があればいつでも対応可能。協力病院のDr、看護師とは受診等入居者に負担が掛からないよう配慮して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族が遠方在住の場合はホームにて入院中の支援や家族とDrとの連絡仲介をして、治療がスムーズに行えるよう又、介護サマリーにて情報提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族へは、入居時に方針を説明し、了解頂いている。又、本人の馴染みの生活の継続ができるよう、法人内での連携又はその都度状態に応じて家族と話し合っている。	入居と同時に、重度化や終末期に向けた指針について説明し、本人の馴染みの生活を継続できるよう法人との連携をとりながら支援することを家族と話し合っている。	職員の中には終末期への対応不安もあることから、終末期に至る変化やその様相、家族への心情(心境)への接し方など、場面を想定した話し合いを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づいて対応するように事務所内に手順を掲げており、応急手当方法は法人内の勉強会、救命士からAEDの講習会等で定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回ホーム内の避難訓練を実施、自治会主催の津波訓練、その他の訓練に入居者と参加している。	自治体の津波訓練に利用者全員が参加しているほか、ホーム独自の避難訓練では支援協力員参加による訓練を行い、その体制を築いている。なお火災報知機の設置について検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の表情や行動観察により、トイレや汚染時の処理はさり気なく介助するようにしている。又、出来る限り同姓介助を行っている。	排泄の確認や誘導、介助や失禁の対応など、利用者への表情や言動には伺いで反応を引き出しながら、誇りやプライバシーを損ねないような対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の生活歴を大事にし、本人と一緒に昔の苦労話や思い出話に耳を傾け、今、元気でいる事に感謝して頂いている。会話の中で方言やことわざを取り入れ、笑いができるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは設定してあるが、その日の様子や入居者の表情を伺いながら、気晴らしに外出したり、強制する事なく対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔からの習慣を大事にして、美容院でパーマをかけたり、化粧をしたり、希望に沿って支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に役割分担をして調理、盛り付け等を行っている。昔ながらの行事食や季節を感じる事ができるよう、旬の物を献立に取り入れている。	調理、盛り付けなど職員と一緒にいき、職員も同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べこぼしなどにさりげなく対応している。献立は、季節感や利用者にとって懐かしいもの、節句食などを取り入れ工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取、水分摂取、排泄等チェック表に記入し、状態把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で不十分な方に対しては、職員と一緒に口腔内のケアを行い自力の方には、声掛け、見守りの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用者はいないが、排泄パターンを把握し、声掛け促しにより、できるだけ失敗のないように支援している。	定期的に排泄パターンを見直し、排泄の確認や誘導、介助や失禁の対応など、人目に付かないようプライバシーを守ると共に羞恥心に配慮した言葉がけや対応で自立の継続に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に出来るだけ体を動かすようにしており、水分摂取、食事に関しては食物繊維を多く取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気の合う同士の入浴等ゆっくり入浴できるよう配慮し、時々、地域の温泉へも出かけ大勢の人達と触れ合い楽しんでいる。	毎日入浴をできるよう配慮されており、誘導や着脱、洗身、洗髪、浴槽の出入りなど、本人が不安や羞恥心を持たずに入れるような対応のもと、ゆったり入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動の中での疲労感や、夕食後の団らんにより、良眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期処方職員が把握しており、変更になった場合は、記録し、申し送り等で徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴を把握しながら、個々の能力に即した役割を持って頂き気晴らしの支援をしている。入居者のありがとうの声が聞かれ笑顔が多く見られるようにと努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の買物、催し物の鑑賞、家族との外出、職員と一緒に消防署や、交番にも出かけたり、地域の協力が得られるよう外出支援をしている。	散歩や回覧板・広報紙廻し、ゴミ捨て、畑仕事などを通して日常的に地域との関わりを持ち、交流を深める機会となっている。このほか、利用者の希望に応じてドライブを兼ねた食事や買い物への外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布に所持金を持っている方もあり、ホームの買物の際、自分の買物等、支払をして頂く事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族にはがきを出したり、本人の希望で電話をしたり、お互いに安心できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂く様、季節ごとの装飾や花を飾り配慮している。又、入居者の写真や作品と一緒に飾っている。	利用者が気の向くままに体を休めることのできる居場所には椅子やソファなどが置かれ、特に玄関先に椅子やソファがあることにより、地域住民とのふれあいの場にもなっている。共有空間には理念を掲示し、利用者をはじめ来訪者にも伝える工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は畳となっており、時には、ゆっくり寛ぐ事ができ、スペースは狭いがコタツ等も配置して家庭での生活を味わって頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の使い慣れた生活用品や位牌等を持ち込まれている方もいる。本人は父さんや、子供達と一緒にいるような気がすると話され、穏やかに生活している。	居室には使い慣れた家具・生活用品を持ち込み、安心して思い思いに過ごせる環境にあるほか、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充など、できる力を大切にしながら、気持ちよく過ごせる居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアには、目印となる物を飾り、トイレ、風呂等も見やすい位置に表示、トイレには、排便確認の意味も兼ねてコメントの表示もしている。		